

# 飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。  
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。  
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？



無理せず、楽しく、続けていくこと。

## 山中和紙若手職人 長尾農園



▲紙の原料から育てるのは河合ならではの



▲雪さらしの様子 今年はや暖冬で大変だった



▲家具や照明などのインテリアに使用されることも



「夏場はトマト農家、冬場は和紙漉きが、自分の仕事スタイルに合っている」ことを見つけた、河合町稲越 長尾農園の長尾隆司さん。  
長尾さんは、下呂市出身。農業大学での農家研修先が河合町で、研修先農家から卒業後も河合町での経営を進められ移住し、トマト農家として独立されました。  
山中和紙との出会いは5年前。トマト栽培ができない冬場も、もの作りに携わりたい思いから、河合の和紙職人、清水忠夫さん(同町新名)の下で原料となる楮の刈り取りや皮はぎ作業、紙漉きの技術を2年間学び、現在独立して新たな担い手として頑張っています。同期には、同町の近谷瑠衣さんも清水さんの下で修業し、山中和紙の素晴らしさを継承されています。  
長尾さんは、「楮の栽培からの和紙生産と、トマトの栽培管理の両立は大変ですが、徐々に注文もいただけるようになってきました。紙漉きは行程も多く大変ですが、最終製品として出来上がったものを見ると嬉しいですね」と語ってくださいました。また、「今後はもっと地元でも使ってもらえるようにしたい。」そして、「無理せず、楽しく、続けていくこと」をモットーに頑張ります」と語ってくれました。  
長尾さんの人望と山中和紙への熱い思いを感じる事ができました。きっと近い将来、色々なお店でたくさん山中和紙を目にすることでしょう。

また、山中和紙では各工程で人がいることがあり、定期的に手伝ってくださる人も募集しているとのこと。ご興味のある方はぜひ河合に遊びに行ってみてください。

「ひと冬で2000~3000枚を漉く河合の冬の寒さが、紙を白く、丈夫にする。」  
▼楮を紙漉きの原料とするまでには様々な工程を要する

### 基本情報

設立：平成 28 年 4 月  
メンバー：2 名  
活動地域：河合町  
主な活動：こうぞを育てるところから、紙漉きの工程まで、山中和紙の生産に関わるすべて



飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>



ひと冬で2000~3000枚を漉く河合の冬の寒さが、紙を白く、丈夫にする。

▼楮を紙漉きの原料とするまでには様々な工程を要する



### 人口の動き (5月1日現在 住民登録人口)

男	11,434	女	12,162	計	23,596	世帯数	8,884
出生	8	転入	87	死亡	27	転出	43
高齢化率	39.14%						

### 消防の状況 (4月30日現在)

	火災	救急
飛騨市	1	300
その他(管外出動)	0	0
前月比	0	64

### 交通事故の状況 (4月30日現在)

	人身交通事故		物損交通事故
	件数	死者 傷者	件数
本年累計	5	1 5	146
昨年同期	10	0 21	184
増減	-5	1 -16	-38